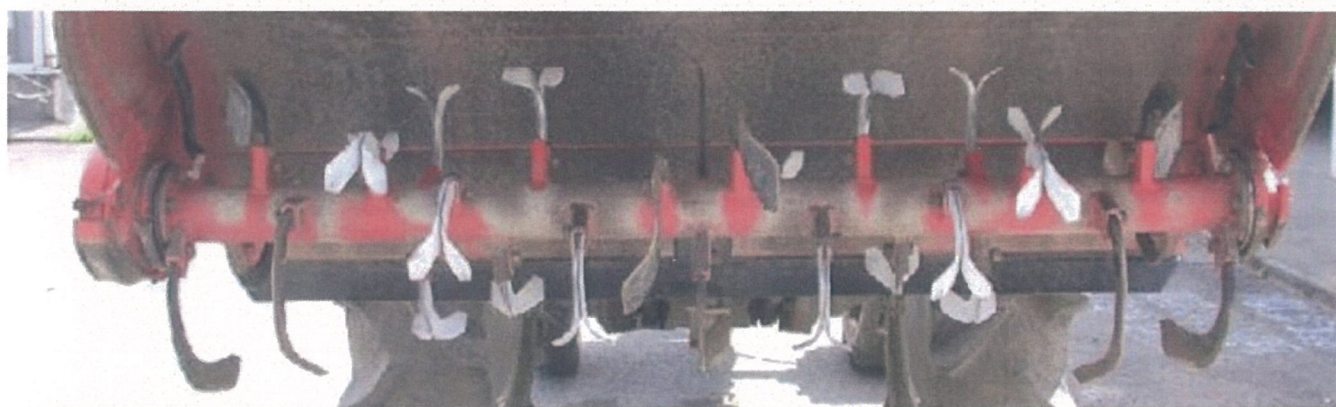


気象変動に強い 大豆の部分浅耕一工程播種技術



技術の 特徴

- ◎麦収穫後、荒起せず、一工程で耕起・播種
- ◎適期播種対策、湿害・乾燥害防止
- ◎省力化、低コスト化

令和2年6月

大豆の部分浅耕—工程播種の作業工程

1

麦収穫後、荒起こしはしない。

※麦わらは塊りができないように広げる

3

播種10日程度前～前日
茎葉処理除草剤を散布する。

※根まで枯らす移行性の除草剤を使用
※近隣の作物への飛散注意

2

カルチ爪を準備する。

ロータリ—幅150cmの場合

■小橋カルチ爪 中耕8号爪

小橋コード 42202 L×18～22本
小橋コード 42201 R×18～22本

■ヤンマー管理機用カルチ爪

型番 40670 ×18～22本
型番 40680 ×18～22本

■(株)太陽社製 部分浅耕専用爪

(クボタ・キセキ等)

品名 T145
塗装色 ホワイトブルー
基部巾 25mm
孔径 10.5mm
適合ロータリ ホルダ巾25mm



■(株)太陽社製 部分浅耕専用爪

(ヤンマー)

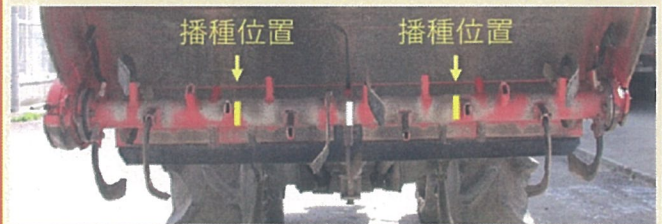
品名 T147
塗装色 ホワイトブルー
基部巾 27mm
孔径 12.5mm
適合ロータリ ホルダ巾27mm



4

改造ロータリの取付。

①播種位置を中心に浅耕部分の
ロータリ除去



※浅耕部分の幅は40cm程度とするが、
中耕・培土の作業幅を考慮して幅を調整。

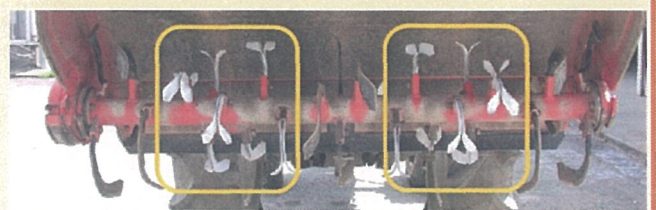
②左右の2枚のカルチ爪を重ね
合わせて取付



ロータリ爪 カルチ爪



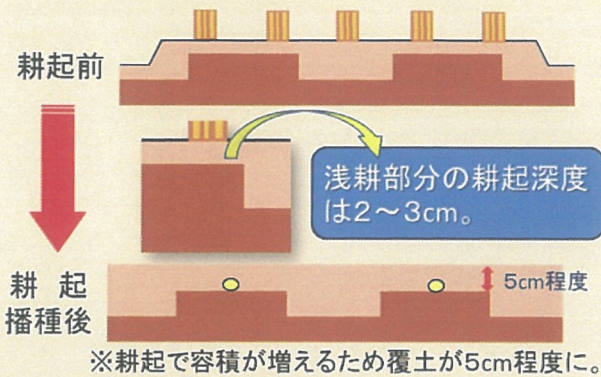
③取付完了(左右対称)



5

播種

① 耕起深度の調整



② 播種深度の調整

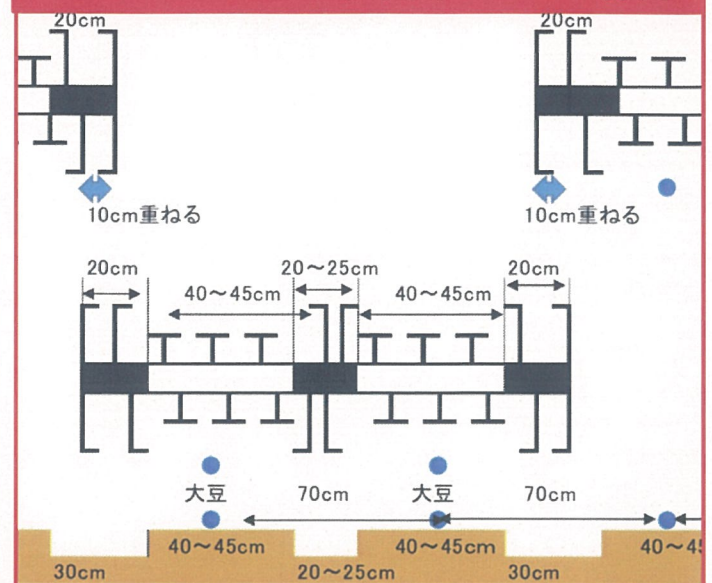
播種の深さは、すき床に押し付けるように深く調整。



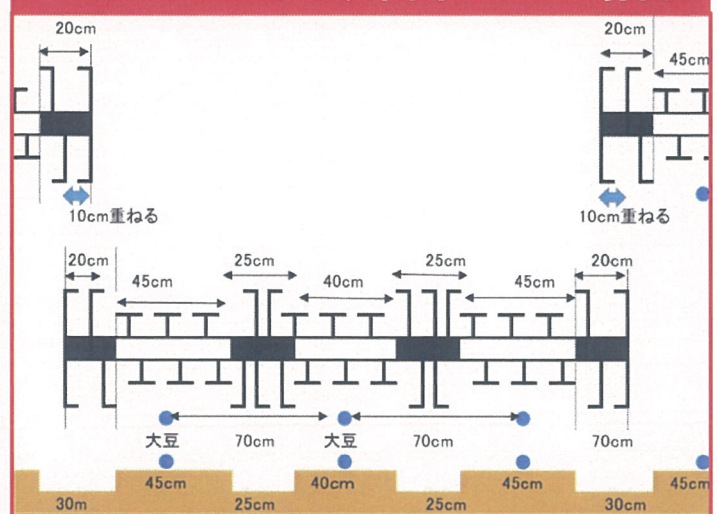
③ 5m程度作業した後、耕起深度と播種深度を再調整



● 150cmロータリ、条間70cmの場合



● 220cmロータリ、条間70cmの場合



碎土の状態を見ながら、PTOと走行速度を調整

(目安) PTOは3か4

(回転数800~1,000rpm)

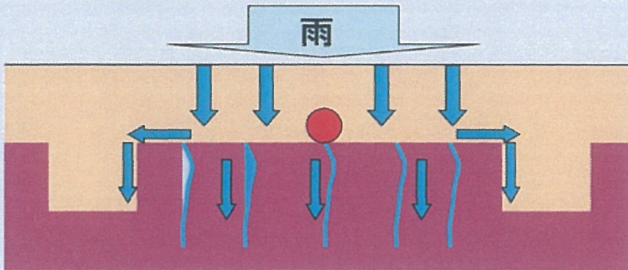
走行速度は2.5km/h以下

Q 一度耕起したら部分浅耕播種はできないのか？

A 「雑草の発生を抑える」「播種後の乾燥に強い」等、部分浅耕一工程播種の効果が十分に得られなくなりますが、マイナスはありません。

大豆の部分浅耕—工程播種の効果

■ 播種前後の雨に強い



- 麦畦の亀裂が残っているので、雨の地下浸透が良い。
- 条間は深く起こしているので、排水溝の役目をする。

■ 浅耕でも根は深く張る

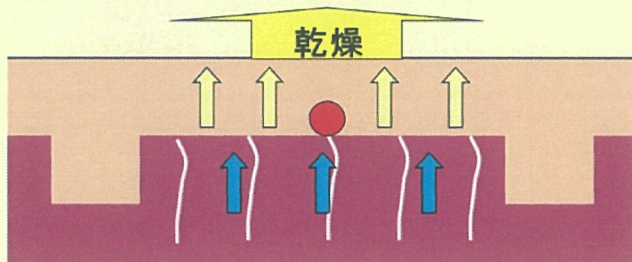


標準耕



部分浅耕—工程播種

■ 播種後の乾燥に強い

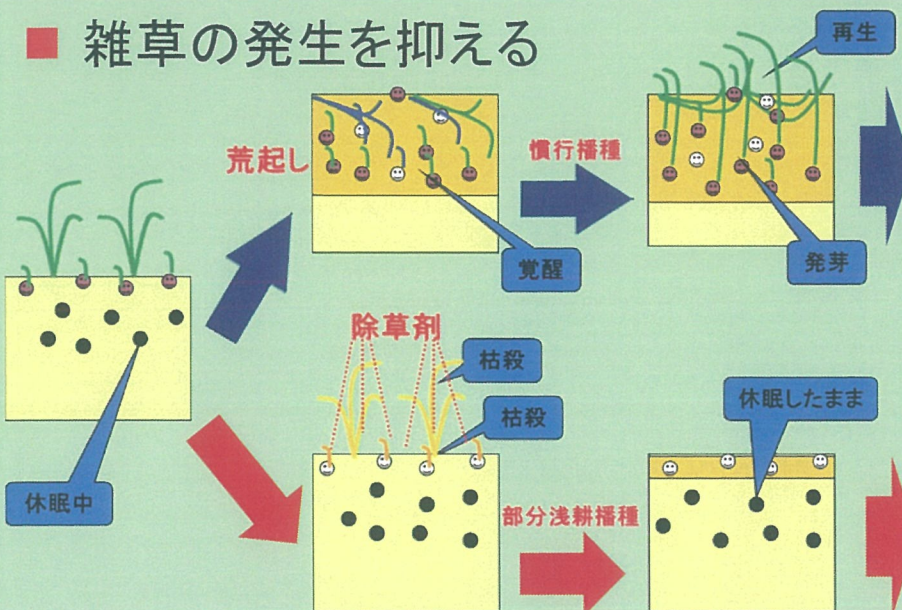


- 未耕うん部分の土壌は乾燥しにくい。
- 種子が鋤床に接しており、地下からの水分供給がある。

■ 収穫ロスが少ない



■ 雑草の発生を抑える



慣行播種

耕起により雑草種子が覚醒し、雑草が発生。

部分浅耕播種

非選択性茎葉除草剤処理と浅耕により雑草の発生を抑制。